

中小企業ホットライン

企業が持っている人材や技術、ノウハウ、経営理念、顧客ネットワークといった財務諸表には表れない、目に見えにくい経営資源を総称して「知的資産」という。企業にとっての「かくれた強み」とも言える、知的資産をきちんと把握し、経営に活用するとともに、取引先などステークホルダー（利害関係者）に対してもしっかりとアピールすることで収益力を高めていこうとする経営を「知的資産経営」と呼び、近年、その重要性がクローズアップされている。

中小機構は、中小企業を対象に、こ

前回のフォーラム会場＝東京・新宿



の知的資産経営の普及に力を入れており、その一環として11月12日に東京・虎ノ門のニッショーホールで「中小企業のための知的資産経営フォーラム2012」を開く。知的資産経営を実践している企業や、そうした企業を支援し

「知的資産経営」普及へフォーラム開催

ている金融機関からの話を通じて、中小企業の経営者らに、自社の一層の成長・発展につながるようなヒントをつかんでもらうのが狙いだ。

フォーラムは、基調講演とパネルディスカッションで構成。基調講演はメーカーズシャツ鎌倉（神奈川県鎌倉市）の貞末良雄会長が「成熟社会の小売業」と題して行う。パネルディスカッションは「経営の『見える化』で新しい『扉』を拓く」をテーマに、パネリストとして青花食研（滋賀県草津市）の西垣広志取締役、梅乃宿酒造

（奈良県葛城市）の吉田佳代常務、ひたちなか海浜鉄道（茨城県ひたちなか市）の吉田千秋社長、但陽信用金庫（兵庫県加古川市）の藤後秀喜常務理事を招き、モデレーターは、ソトム経営研究所（堺市）の森下勉氏が務める。

入場無料で、定員は先着300人。申し込み方法などはホームページ（<http://chitekishisan2012.smrj.go.jp/>）で。

（独立行政法人中小企業基盤整備機構）